

会議概要（要点記録）

| | | |
|---|-------|--|
| 1 | 会議名 | 南あわじ市子ども・子育て会議（第22回） |
| 2 | 開催日時 | 令和2年10月27日（火）午前10時00分～午前11時00分 |
| 3 | 開催場所 | 南あわじ市役所 第2別館 2階 第5会議室 |
| 4 | 出席者 | <p><委員> 南あわじ市子ども・子育て会議 委員12人（2人欠席）</p> <p><事務局> 子育てゆめるん課長、同副課長1名、同係長2名</p> <p><ワグザバー></p> |
| 5 | 配付資料 | <p>・子ども・子育て支援事業計画に基づく令和元年度事業実績について</p> <p>・補足資料</p> |
| 6 | 会議の概要 | <p>1. 開会 子育てゆめるん課長が開会</p> <p>2. 議題 戸江会長が挨拶後議事進行</p> <p>（1）子ども・子育て支援事業計画に基づく令和元年度事業実績について</p> <p>（2）その他</p> <p>3. 閉会 宮野副会長が閉会</p> <p>以下「1 開会」の要旨</p> <p>（事務局）</p> <p>皆さんおはようございます。定刻が参りましたので、ただいまより第22回南あわじ市子供子育て会議を開催させていただきます。私は市民福祉部、副部長兼子育てゆめるん課長の前田と申します。事務局といたしまして進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。本日、欠席者2名、委員1名がリモートでの参加ということでございます。委員の定数が14名のうち、12名の方がご出席で、定員の過半数に達しておりますので、南あわじ市子ども・子育て会議条例第5条の規定に基づき会議が成立したことを、ここに報告させていただきます。今年度第1回目の子ども・子育て会議ということで、委員の方、それから事務局の方側にも交代がありましたので、初めてお会いする方もいらっしゃると思いますので、簡単に自己紹介をしていただけたらと思います。</p> <p>～自己紹介～</p> <p>以下「3 議題」以降の要旨</p> <p><u>議題（1）</u></p> <p><u>子ども・子育て支援事業計画に基づく令和元年度事業実績について</u></p> <p>（事務局）</p> <p>1 教育・保育施設の量の見込みと確保の内容について</p> <p>（1）幼稚園及び認定こども園（保育の必要のない児童）</p> |

「幼稚園教育要領」や「幼保連携型認定こども園の教育・保育要領」に基づいて、幼児期の学校教育を行う事業です。

1) 幼稚園

公立3園：湊・津井・志知 85人、私立1園：淡路さゆり 7人。1号認定92人。

2) 幼保連携型認定こども園

公立1園：伊加利1人・私立2園：福良1人、松帆南1人。1号認定3人。

確認を受けない幼稚園、洲本市の柳幼稚園の13人を今回の実績に含め、合計108人。

このうち令和10月以降の無償化により、ほぼ全児童が保育が必要な児童とし認定を受けています。いわゆる新2号という扱いで、昼からも保育を受けています。

※令和元年度

計画見込：120人（1号認定39人、2号（教育）81人）

確保方策：118人

実績：1号認定108人に対して、確保方策118人 利用率91.5%

※令和2年10月1日時点では、87人と柳幼稚園18人

合計 105人 利用定員 124人 利用率84.7%

(2) 保育所及び認定こども園（保育の必要な児童）

「保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づいて、乳幼児期の保育を行う事業。

市内には、公立10園、幼保連携型認定こども園（公立1園・私立3園）、小規模保育所1カ所、事業所内保育所2カ所。

※令和元年度

計画見込： 1,409人 確保方策：1,409人

（内訳）2号保育 989人

3号0歳 55人

3号（1～2歳） 365人

実績：1,360人

（内訳）2号保育 991人

3号保育 369人（3号0歳55人、3号（1～2歳）314人）

合計1,360人 利用定員 1,405人 96.8%

※令和2年10月1日時点では、

2号保育 1,034人

3号保育 345人（3号0歳38人、3号（1～2歳）307人）

合計1,379人 利用定員 1,424人 96.8%

2、地域子育て・子育て支援事業

(1) 利用者支援事業

子どもやその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供、及び必要に応じて相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施する事業です。

利用者支援事業には3つの事業類型「基本型」「特定型」「母子保健型」があります。

子育て学習・支援センターで基本型として事業を実施し、子育てゆめるん課で「特定型」、健康課で「母子保健型」の合計3か所で実施しています。このうち子育て学習・支援センターは、あとで、でてきます地域子育て支援拠点事業を活用しており、親子の交流の場所、相談、情報提供、助言、援助を行う事業ですので、相談業務も含めた事業ですが、より効果的に利用者が必要とする支援につながるよう関係機関との連絡調整や連携を強化するということです。また、あとから報告させていただきますファミリー・サポート・センター事業もこのセンターを拠点にして、子どもの一時的預かりを実施しています。

(2) 延長保育事業 (0歳～5歳)

保護者の就労状態に応じて、保育認定を受けた子どもについて、通常の利用時間を超えて保育を実施する事業。市立保育所2園(市・神代保育所)が実施。

※令和元年度

計画見込：168人(2号89人、3号79人) 確保方策：168人

実績：117人(2号68人、3号49人) 月平均10人利用

※令和2年10月1日現在10人が利用

(3) 放課後児童クラブ(放課後児童健全育成事業)ですが、いわゆる学童保育のことです。

保護者の就労等により昼間家庭にいない児童を対象に授業終了後に小学校の余裕教室などを活用し、適切な遊びや集団生活の場として、児童の健全育成を図る事業です。開設校区は、沼島、志知の2校区を除く市内の全校区を対象に実施しており、実施箇所としては13か所となっております。なお、志知小学校区については、校区外の湊学童保育所への送迎型を実施しています。なお、登録人数については、夏休みなど急に増える期間もありますので、ここでは月平均値を使用しており、令和元年度は365人の定員に対して平均326人の登録という実績になっております。

(4) 子育て短期支援事業(ショートステイ)

保護者の疾病などの理由により家庭において、子どもの養育ができない場合に短期間の宿泊といったかたちで児童養護施設等への入所により、子どもを一定期間預かり、必要な保護を行う事業です。南あわじ市では、市内にあります児童養護施設「淡路学園」、淡路市志筑にあります児童養護施設「聖智学園」、3歳未満の乳幼児を対象とした「明石乳児院」、徳島県鳴門市にあります児童養護施設「鳴門子ども学園」、淡路市にあります小規模住居型児童養育事業所「ファミリーホーム松野」の5施設と契約しており、ショートステイの受入れ体制を整えております。令和元年度において、見込み、確保方策を25人と設定しており、延べ12人の利用実績がありました。資料は4人となっておりますが、12人の記載誤りです。

(5) 乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)

健康課の保健師が、生後4か月の乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境の把握を行う事業です。

令和元年度は、323 人の見込みに対し、323 人の確保方策を設定していた中で、訪問の対象件数 256 人に対して、251 人の訪問を実施しております。訪問率は 98.1%となっております。
なお、訪問できなかった 5 人の内訳については、他市在住が 2 人、海外在住が 1 人、健診等で確認が 2 人と報告を受けています。

(6) 養育支援訪問事業

養育支援が特に必要な家庭を訪問し、保護者の育児・家事等の養育についての指導・助言を行う事業です。養育支援事業としての実績はありませんが、臨床心理士、保健師等が保育施設を巡回する巡回相談や気になる家庭への訪問調査を実施しています。

巡回相談は 35 施設 165 件、訪問調査は 427 件、相談件数は 561 件となっております。

(7) 地域子育て支援拠点事業 (0~2 歳)

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報提供、助言その他の援助を行う事業です。拠点としては、子育て学習・支援センター（通称ゆめるんセンター）で実施しています。

令和元年度は 13,680 人の見込に対し、9,006 人の実績がありました。

計画に対しては、66%で平成 30 年度の 89%と比較して大きく減少しています。例年 3 月に実施していましたゆめるんパーティーなどのイベントが新型コロナの影響で未実施となり、減少していることと、登録者の減少が原因と考えられます。

※登録率 30 年度 0~2 958 人 474 人 49.5%

元年度 0~2 889 人 400 人 45.0%

(8) 一時預かり事業

家庭において一時的に親が病気や入院等で保育できない場合や、親が就職活動の場合や育児疲れの解消等に預けるといった理由により主に昼間に幼稚園や保育所、ファミリー・サポート・センター等において一時的に乳幼児を預かる事業です。一時預かり事業は、2 種類。

1) 幼稚園における在園児を対象とした一時預かり (3~5 歳)

幼稚園や認定こども園において、教育時間を超えて預かり保育を希望する園児を対象とした一時預かり事業（幼稚園型）を実施するもの。

南あわじ市では公立 3 園（湊、津井、志知幼稚園）、公立認定こども園 1 園（伊加利こども園）、私立幼稚園（淡路さゆり幼稚園）で実施。1 号認定を受けた園児が平日定期的に利用。

※令和元年度

計画見込：19,855 人 実績：18,663 人 94%

2) 保育所等における在園児以外の一時的預かり (0~5 歳)

南あわじ市においては、公立保育所（志知保育所）、私立認定こども園（福良認定こども園）ファミリー・サポート・センターの 3 カ所で実施。

※令和元年度

計画見込：1,508 人 実績：994 人

実績の内訳は、志知保育所 571 人、福良認定こども園 367 人、ファミサポ 56 人の合計 994 人の

利用がありました。

昨年度に比べて、福良認定こども園の実績が 739 人から 367 人と大幅に減少。

30 年度は、里帰り出産や、週数回働く保護者の方が増えたことにより、利用数が増加していましたが、令和元年度は里帰り出産の減少や、在宅保育等の増加に伴い減少しているのではないかと考えています。

(9) 病児・病後児保育事業

病児について、病院・保育所等に付設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育等する事業です。本事業については、量の見込を計上していますが、令和元年度は未実施で、令和 2 年度から市こども園で病後児保育事業として実施しています。定員 3 名ですが、令和 2 年 9 月末現在利用実績はまだありません。

(10) ファミリー・サポート・センター事業（小学生）

乳幼児や小学生の児童を有する子育て中の保護者で児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と、当該援助を行うことを希望する者との登録制による相互援助活動を行う事業です。本市においては、未就学児を事業の対象としており、小学生を対象とした相互援助活動は未実施のため、実績はありません。今後の事業展開としては、放課後児童クラブとの兼ね合いや、当該事業の利用のニーズがあるか等検討しながら、展開していきたいと考えています。

(11) 妊婦健康診査

妊婦の健康保持や増進を図るため妊婦に対する健康診査として、妊娠期間中に必要に応じた医学的検査を医療機関で受診する実施する事業ですが、南あわじ市では医療機関での受診費用の助成を行っています。

助成券は、14 枚発行しており、上限 98,000 円の助成をしております。令和元年度は 522 人の計画見込んでいました。発行した助成券については、必ずしもその年度内に健診回数に反映するのではなく、年度をまたぐことが考えられますので、妊婦健康診査を受けた人は、2 か年をまたいだ分として 415 人、検診回数は 3,296 回となっております。

(12) 実費徴収に係る補足給付を行う事業

保護者の世帯所得の状況等を勘案して、特定教育・保育施設等に対して保護者が支払うべき日用品、文房具その他の教育・保育に必要な物品に要する費用または行事に参加する費用等を助成する事業です。

令和元年 10 月の保育料無償化により、低所得世帯及び所得階層にかかわらず第 3 子以降の子どもに係る副食費は免除されていますが、新制度に移行しない幼稚園については、副食費の実費徴収が発生するため、実費徴収分（上限 4,500 円／月）を償還払いで支給しています。

実績 4 人 延べ 21 か月分の費用を支給しました。

(13) 多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業

特定教育・保育施設等への民間事業者の参入の促進に関する調査研究やその他の多様な事業者

の能力を活用した特定教育・保育施設等の設置または運営を促進する事業です。
本市においては、事業未実施のため、実績はありません。

(会長)

事務局から説明が終わりましたので、何か質問等あればお願いします。

(委員)

2 ページ目の保育所の量の見込みの実績が 1,360 人に対して、令和 2 年 10 月現在では 1,379 人ということで、19 人増加していますが、特にどこが増えたのでしょうか？

(事務局)

特に増えた箇所は、2 号（保育）の項目で、元年度の 991 人の実績に対して、10 月現在は 1,034 人と 45 人増加しています。利用定員についても、令和 2 年度から市こども園が開園していますので、1,405 人から 1,424 人と 19 人増加しています。

(委員)

7 ページの一時預かり事業について、幼稚園の在園児を対象とした一時預かりが多いが、これは預かり保育のことを指しているのか

(事務局)

南あわじ市の特徴として、もともと旧西淡地域に保育施設がなく、幼稚園が設置されていました。幼稚園は午前中の教育を行っており、お昼からの預かりについては一時預かりを実施しています。国に先立って保育料無償化を実施するにあたり、保育施設のない地域（旧西淡地域）についても他の地域と合わせる形でお昼からの預かりを無償で実施していました。そのため、幼稚園での一時預かりについては、他の保育施設同様に、ほとんど入所と同じような扱いで実績が多くなっています。

(委員)

7 ページの保育所等における在園時以外の一時預かりにおいて、子どもを預ける理由として多いのは何ですか？育児疲れとか、子育て困難な時に預けているのですか？

(事務局)

一時預かりで子どもを預かる理由として多いのは、主に里帰り出産で、あとは病気等の理由により病院等に入院のためと担当から聞いています。また、ファミリー・サポート・センターにおける実績については、保護者の買い物や家事などの理由で預けていらっしゃる方が多い状況です。

(会長)

4 ページの学童保育について、実績においては定員より少ない状況ですが、今後は利用者が増えることが予想されます。どこかの時点で計画の見直しが必要になるかもしれないですね。

(事務局)

今後、学童保育が増えた場合、計画の見直しが必要になると思います。今の施設の定員については、ある程度のスペースもあることから、柔軟に対応できると考えています。

(委員)

8ページの病児・病後児保育事業については、令和2年度から実施ということでしょうか？また、病児ではなく、病後児保育として実施ということによろしいでしょうか？

(事務局)

令和2年度から病後児保育事業として、「市こども園」で実施しています。

(委員)

以前は淡路島全域で病児・病後児保育事業を実施するという方向性がであったと思いますが、島内各市で実施しているのでしょうか？

(事務局)

淡路市は、「聖隷こども園」で実施、洲本市は「なのはなこども園」でいずれも病後児保育として実施しています。

(会長)

5ページの乳児家庭全戸訪問事業について、訪問率98.1%で訪問できなかった理由もはっきりしているのですが、ほぼ100%実施といっても過言ではないと思います。他市ではどうしても連絡がとれず、実施ができない状況もありますが、こちらはほぼ100%ということで、細やかな対応ができているのではないかと考えます。

(委員)

民生児童委員の活動として、健診時に同席して、記念品を渡していましたが、今年の12月まで、健診時の同席を控えている状況です。

(事務局)

新型コロナウイルスの影響もあり、各事業いろいろと対応しながら実施してますが、利用が減少したり、イベントが中止になったりとしている状況です。年度末に第22回子ども・子育て会議を実施する予定ですので、その時に今年度の実績見込みをお示しできればと思っています。

(会長)

その他何かご意見ございませんでしょうか？

意見がないようですので、次の議題「(2) その他」として何か事務局の方で何か議題はありますでしょうか？

(事務局)

特に議題としてご用意していません。次回の開催時期について、令和3年2月ごろを予定しています。次回開催予定日については、後日、日程調整をさせていただいてもよろしいでしょうか？

(委員)

はい。

(会長)

それでは、これで本日の子ども・子育て会議を閉会したいと思います。閉会のあいさつは副会長からよろしくお願いします。

3 閉会

(副会長)

慎重審議いただきありがとうございました。

本日はこれで閉じさせていただきます。ありがとうございました。